

# 令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 人形劇団むすび座
公演団体名	人形劇団むすび座

内容
<p>新型コロナウイルスの感染拡大状況により学校に直接お伺いできない場合、ご希望に応じて zoom を使用したオンラインでのワークショップを実施することができます。</p> <p>①この「オズのまほうつかい」では、文楽の様に一体の人形を三人で遣う「三人遣い」の様式を取り入れています。作品や劇団の紹介とともに、「三人遣い」の操作方法や人形の材質・構造についての説明を行い、「三人遣い」で人形が動く様子をご覧ください。</p> <p>②ワークショップに参加する児童一人一人に、自由な発想で自分だけの「マンチキン」人形を作ってください(材料は事前に郵送します)。</p> <p>③児童からの人形操作や劇団活動に関する質問に答えるなど交流の時間をもちます。</p> <p>※オンラインでは時間内での共演シーンの振付や動き方のレクチャーができかねること、また、本公演当日のリハーサルの時間内にその内容を補うことが困難であると想定されることから、本公演での共演については全校を対象にした交流の時間に変更させていただきます(21年5月現在)。</p>

タイムスケジュール (標準)						
0	10	20	45	55	100	
	挨拶 劇団紹介	三人遣い 紹介	人形づくり①	休憩	人形づくり② 交流タイム	
標準的なタイムスケジュールです。実施される学校のご都合に合わせて調整させていただきます						

<b>派遣者数</b> ※派遣者数の内訳を御入力ください
主指導者(1名) 指導者(2名) 補助者(1名) 計(4名)

<b>学校における事前指導</b>
<p>ワークショップ実施前に人形キットとスタディガイドをお送りいたしますので、あらかじめ目を通していただくと、当日の流れがよりスムーズになります。</p> <p>実施の前に、担当の先生との打合せや通信テストを行いますのでご協力ください。</p>

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 人形劇団むすび座
公演団体名	人形劇団むすび座

<p><b>演目</b></p> <p>「オズのまほうつかい」</p> <p>*文化庁「文化庁舞台芸術創造活動活性化事業」採択 *「厚生労働省社会保障審議会特別推薦児童福祉文化財」選定 *児童健全育成推進財団「児童福祉文化賞推薦作品」選定</p> <p>原作：ライマン・ボーム 脚色／篠原久美子(劇団劇作家) 演出／関根信一(劇団フライングステージ) 美術／宮武史郎・小辻賢典 音楽・音響／ノノヤママナコ(マナコ・プロジェクト) 振付・振付指導／LONTO(ラストラーダカンパニー)・服部哲郎(afterimage) 衣装デザイン／長谷川真代 照明／若狭慶大(藤井照明) 合唱指導／板倉恵三子・板倉歌奈子 制作／吉田明子・伊藤博美</p> <p style="text-align: right;">公演時間(90分)※途中10分の休憩をはさみます</p>
--

<p><b>派遣者数</b> ※派遣者数の内訳を御入力ください</p> <p>役者 8名 + スタッフ 2名 (合計 10名)</p>
---

<b>タイムスケジュール(標準)</b>							
9:00	12:15	13:15	13:30	15:00	15:30	17:00	
搬入・舞台設置	昼食	開場	公演	終演 交流	撤去	退出	
・標準的なタイムスケジュールです。実施される学校のご都合に合わせて調整させていただきます							

<p><b>実施校への協力依頼人員</b></p> <p>0人</p>
-------------------------------------

## 演目解説

### <あらすじ>

ドロシーは、家ごと竜巻に巻き上げられ、オズの国にやってきます。そこでドロシーは、カカシ・ブリキ・ライオンと出会い、どんな願いもかなえてくれる「偉大なオズの魔法使い」に会うために旅に出ます。カカシは脳みそ！ブリキは心！ライオンは勇気！をもらうため。ドロシーは、我が家に帰るために…。

### <みどころ>

原作も良く知られ、映画やミュージカルなど数多く舞台化されている作品ですが、私たちはこの物語を、ドロシーだけでなくカカシもライオンもブリキも、みんな子どもとして描きました。偶然出会った、孤独で喪失感を抱え、自分に自信がなく自分はダメだと思っている子ども達。彼らは旅をする中で時にはけんかをし、時には補い合いながら、かけがえのない友達になっていきます。登場人物を子どもに設定したことで、古典文学である「オズの魔法使い」の世界はより観客の子どもたちへと近づき、親近感を持って物語を楽しむことができます。観客と一緒に進んでいくドロシーたちの冒険の旅は、子どもたちに仲間の大切さを伝え、子どもたちが自分自身を好きになるきっかけとなることでしょう。

また、存在の多様性を視覚的に表現するため、ワラの詰まった麻袋、無機質なブリキなど、登場人物それぞれの違いを強く意識し、素材感を前面に出した人形デザインにしました。ドロシーたちが自分とはまったく違う存在と出会った時、お互いを否定し排除するのではなく、協力し合って困難を乗り越えていく姿を子どもたちに観てもらい、自分ならどうするだろうと考えてもらいたいと思っています。さらに、明るく軽快な曲と共にお話が次々と展開していくテンポの良さ、疾走感もみどころのひとつです。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本作品に登場するオズの国の住人マンチキン。事前のワークショップで、子ども達一人一人が自由な発想でマンチキンの仲間たちを作ります。

ワークショップがオンラインでの実施の場合については、劇中での児童との共演はできませんが、自分たちが作った人形と同じ仕組み・動きをする人形が登場しますので格別に親しみを持つことができます。

終演後に全鑑賞児童を対象とした交流タイム(詳細は次項に記載)を設けます。交流タイムがあることを事前にお伝えしていただくことで、より積極的な鑑賞につながります。

## 児童生徒とのふれあい

全鑑賞児童を対象とした交流タイム(人形の紹介や実演・質疑応答など)を設けます。

- ①子どもたちから感想を聞く
  - ②俳優たちが人形の動かし方や人形・舞台セットの構造等を説明する
  - ③子どもたちの質問に答える
- など、全児童との交流の時間をもちます。

また、人形を製作した児童には、オンラインで作った人形の実物をお持ちいただき、出演者ともにセットの前で記念撮影など、より深い交流をさせていただきます。